

連合 徳島



JTUC-TOKUSHIMA

NO.209 (2010年1月1日)

発行人・小松義明 編集人・齋藤英司

日本労働組合総連合会徳島県連合会

〒770-0942 徳島市昭和三丁3丁目35-1

徳島県労働福祉会館6F

088-655-4105 Fax 088-655-4113

E-MAIL info@tokushima.jtuc-rengo.jp

すべての働く者の連帯で、希望と安心の社会を築こう

- 1月 6日(水) 県職連合旗開き 18時(グランヴィリオホテル)
7日(木) 2010 連白白書学習会 (東京)
8日(木) 自治労県本部旗開き 17時30分(ホテル千秋閣)
13日(水) 2010 新年互礼会 16時(阿波観光ホテル)

当
面
の
日
程

すべての働く者の連帯で 希望と安心の社会を築こう



連合徳島
会長 小松義明

新年明けましておめ

でございます。

昨年は、各構成組織の組合員・家族並びに役員の皆様には、連合徳島の諸活動にご支援ご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

とりわけ、第45回衆議院選挙では、劇的な政権交代を果たすことができました。これも一重に各構成組織・地域協議会の役員をはじめ組合員・退職者の皆様方の力強いご支援の結果であり、衷心より敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、日本の経済・社会はまさに底割れの状況に直面しています。配分のバランスは崩れ、社会・経済システムの機能低下、セーフティネットも十分に機能していません。貧困問題も年を追うごとに深刻化しています。また、こうした状況への様々な対応の結果、デフレがデフレを呼び起こすという縮小均衡の悪循環を招来しており、雇用調整助成金の効果により低く抑えられている失業率もその制度改善がなければ大きな社会問題となることが懸念されるなど、日本経済・社会の枠組みは、正

に今こそパラダイム転換が必要不可欠となっています。

連合徳島は、昨年結成20年を迎えました。私たちはこの間諸先輩が築き上げてきた「運動の礎」を基に、「社会連帯」と「ディーセントワーク」をキーワードとして、「働く」ことの価値が共有化され、「労働の尊厳」が尊重される社会、働き暮らす人々が主人公で、その「幸せ」に最大の価値をおく社会の創造をめざすことが問われています。

そのためには、日本社会に底割れに歯止めをかけ、雇用の確保・創出、政策・制度要求の実現に努める「地域に根ざした顔の見える運動」をさらに前進させ、地域や地域で働く労働者が抱える諸課題への対応力を強化し、社会連帯の輪を拡大する社会の安心・安全のために労働組合は不可欠の存在であり続けるために、組織化・組織拡大を中心に集団的労使関係を再構築する等を実践することです。

また、第22回参議院選挙では、組織内推薦議員をはじめすべての推薦議員の勝利のため組織の総力を挙げて闘い、真の政権交代を成し遂げなければなりません。

新たな年、諸先輩のご努力に感謝しながら、歴史に学び、これから未来に向かって一步一步新しい歴史を築くため、主体性をもって、全員の知恵を出し合い、変わることを恐れず、様々な課題に果敢に挑戦していきましょ

う。皆様のご支援とご奮闘を心からお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年ごあいさつ



日本労働組合総連合会
会長 古賀伸明

新年おめでとうございます。

昨年はいわば歴史の転換点の年、そして今、希望の国へとパラダイムシフトする年、2010年を迎えました。

グローバル化の激化と新自由主義の下で、飽くなき強欲が支配する金融資本主義が暴走の末に破綻、世界同時金融危機を引き起こし、その結果、世界同時不況に陥りました。

市場原理主義は私たちが住む社会や生活に大きな爪痕を残しました。社会的公正や安心・安全が揺らぎ、格差は拡大し、先進国としてこれまで想像もできなかった深刻な貧困問題に直面しました。地域のコミュニティも破壊され、不安と不信の社会を招いてしまいました。しかし、世界は新しい道を模索しはじめています。新自由主義の本家である米国ではオバマ民主党政権が誕生し、国際社会では雇用やディーセントワークを確保するための協調の動きも見られます。わが国においても新自由主義的政策を推し進めた自民党を中心とする前政権に

国民はノーを突きつけ、長年の悲願であった政権交代が選挙を通じて実現しました。

利益や効率が最優先されるむきだしの競争社会では人は生きていけません。「連帯と相互の支え合い」という協力原理が活かされる社会、ぬくもりのある思いやりの社会とするため幅広い国民的合意を形成しなければなりません。不安と不信の国から希望と安心の国へ。価値観の転換を図るためのキーワードである「連帯」「公正」「規律」「育成」「包摂」といった5つの理念を重視して、力強い内需に支えられた層の厚い中間層を復活する必要があります。

連合は昨年結成20周年を迎えました。私たちはこの歴史に学び、これから次のステージに向かってナショナルセンターとしての自覚をさらに強め、責任と役割を果たすため全力を挙げてまいります。連合が支援する民主党を中心とした新政権が誕生したことにより、希望の国へと変えていく環境は徐々に整いつつあります。今年の参議院議員選挙でもさらなる地固めをし、2010年こそ将来に希望が持てる日本に変える年にしなければなりません。

すべての働く者の連帯による、すべての働く者のための労働運動を推進し、「労働を中心とした福祉型社会」を目指し「希望と安心の社会を築く」ことに全力を挙げ、新年の挨拶とさせていただきます。